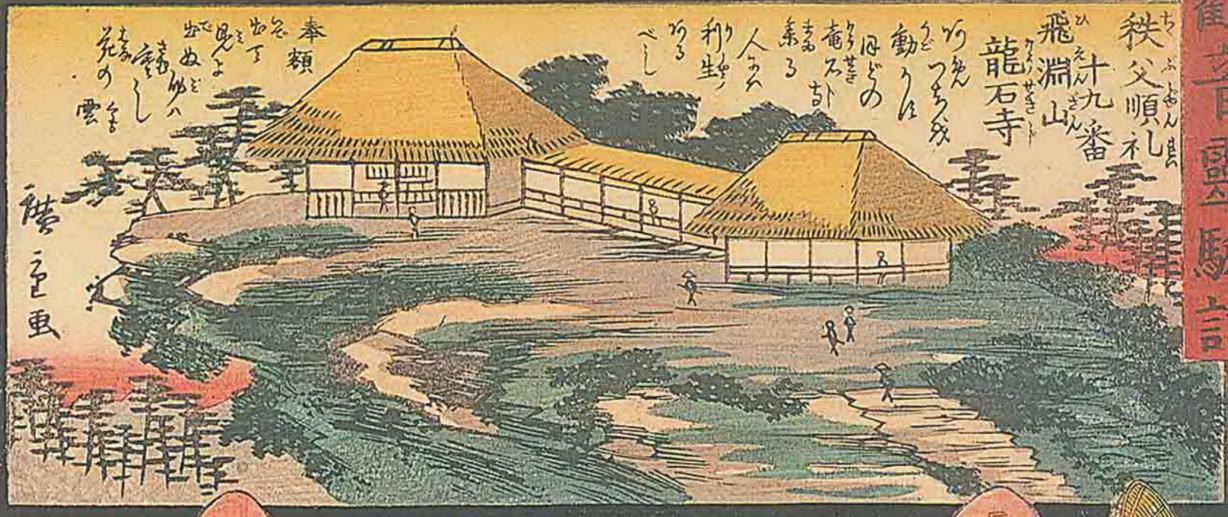


観音靈驗記



飛行の尊像

當寺の境内に龍宮涌出の霊場を
堂舎をもち歩道の地は大槩一枚の
盤石あり法大師の作を
本尊の尊像はゆりく
京洛より飛で爰に移り
五の尊像はゆりく
のゆりくは霊驗ありあり
或年天下大旱一
萬氏の飢渴
まのゆり



万亭應賀誌

全神泉苑より小竜天上
此地の盤石ニ
起し七
忽ち大雨降
草木
五穀豊饒せし
観音乃利益あり

寺尾村の孝子

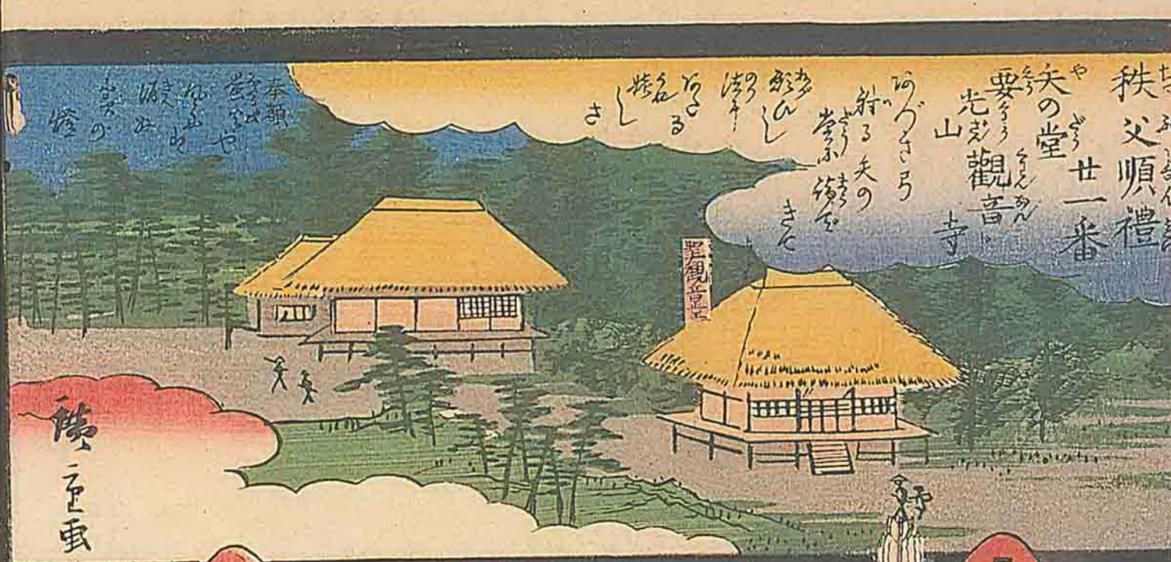
當山は白河院の御建
立すす適下荒川
の水藍のく濁まを
多と絶頂ハ峻々として
その風景言葉るる
天験の移さるる此寺尾
村の者老る母を川むの宮路と
の所ハ母を朝夕見まひる
時病ハ告来ま急ぎ行
とこの麓の湖は未りころ折
大雨のハ俄水ぬり歩行
りまるこつハ角やせんと
心あせらる水ハ増り
るは板令命を捨てたも母の安
否を知らぬ小やと既渡らん
所へ見馴る童子舟ハ掉りて是
小舟と久バ夢のく悦びて岸
は上り身何處の者と問ハ我ら
あの岩の上者ハ孝心を憐と
渡せ母も兼て我を信ハ疾々
りる小舟失て跳るけハ観音
のゆりくは若の上をゆり
急ぎ母小現ハ最早も愈られ
あつた物語は小利益を信仰
一生供養を修るると



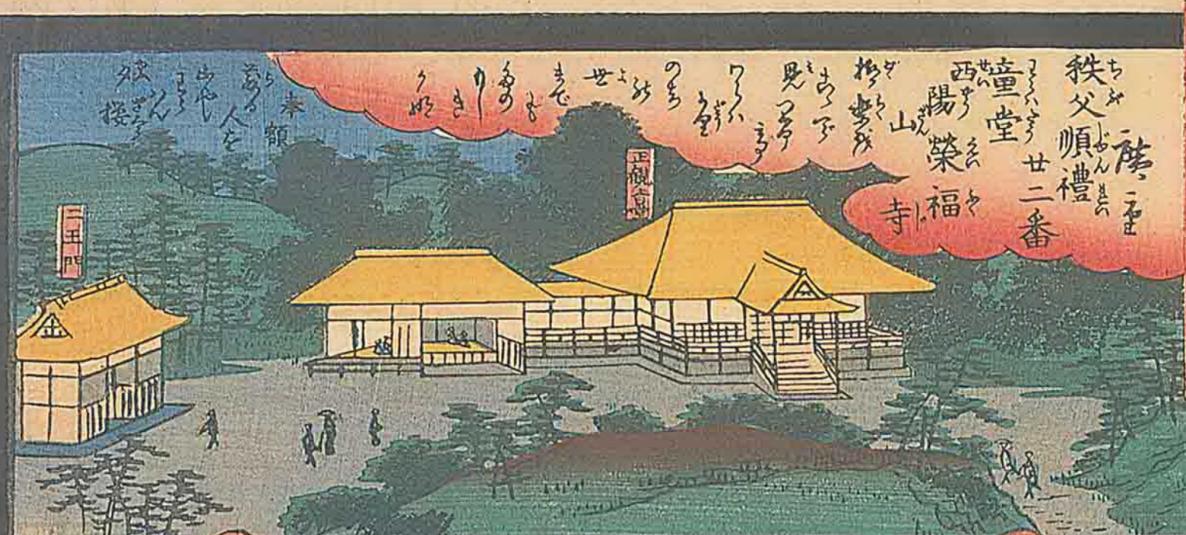
秩父順禮 二十番

岩の上
別當内田定金
若ハ
まのゆり

観音靈驗記



観音靈驗記



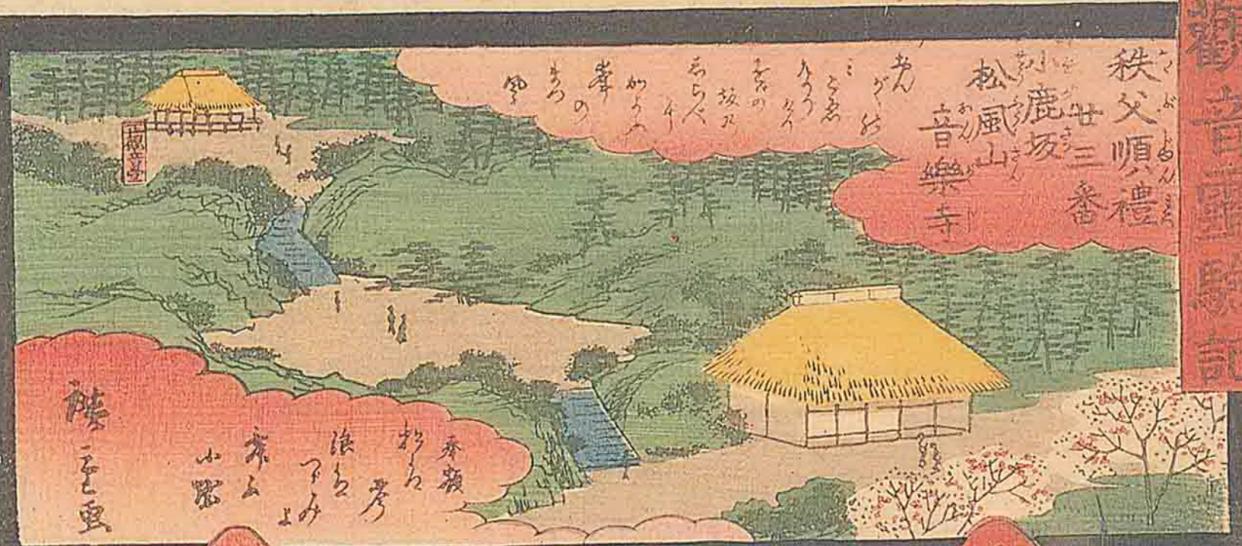
万亭應賀誌

萬亭山主

國史入

萬亭山主

觀音靈驗記



白山基國 内山源藏
白山、慈覚大師此処小堂宇を建て、時余多の
男鹿來の道の案内をせし、久小鹿坂とらう
誠、絶景の地あり、靈驗も又、何れもあつた
白山基國の家來、内山源藏、觀音をよく信
ずる時、大内介義弘の討手を基國命せ
られ、多量に源藏も出陣の役、あり、武門の
面目、いかにあつた、七十、ちつた、老母、ふ
離るるを、深く、あはれ、なれ、老母、いかに
さる、あつた、此、守、佛、秩父、音樂、寺の
御影、あり、あつた、御、中、へ、母、を、お、り、ん
と、南、無、大、慈、大、悲、と、唱、へ、よ、い、を、勝、利
わ、た、し、と、渡、る、と、い、は、う、と、ひ、て、梵、の、も、ち、ふ
さ、あ、り、出、陣、せ、し、處、の、守、の、か、げ、ふ、や
腕、き、矢、さ、た、劍、先、を、の、と、終、ふ
我、弘、敗、軍、み
の、が、基、國、勝、利
を、得、て、凱、陣、の、う
を、源、藏、が、功、成、名
と、な、し、身、を、退、き、母
の、あ、つ、た、小、出、家、と、あ、つ、た
觀、音、を、供、養、せ、し、小
の、あ、つ、た、と、な、り、



萬亭應賀誌

觀音靈驗記

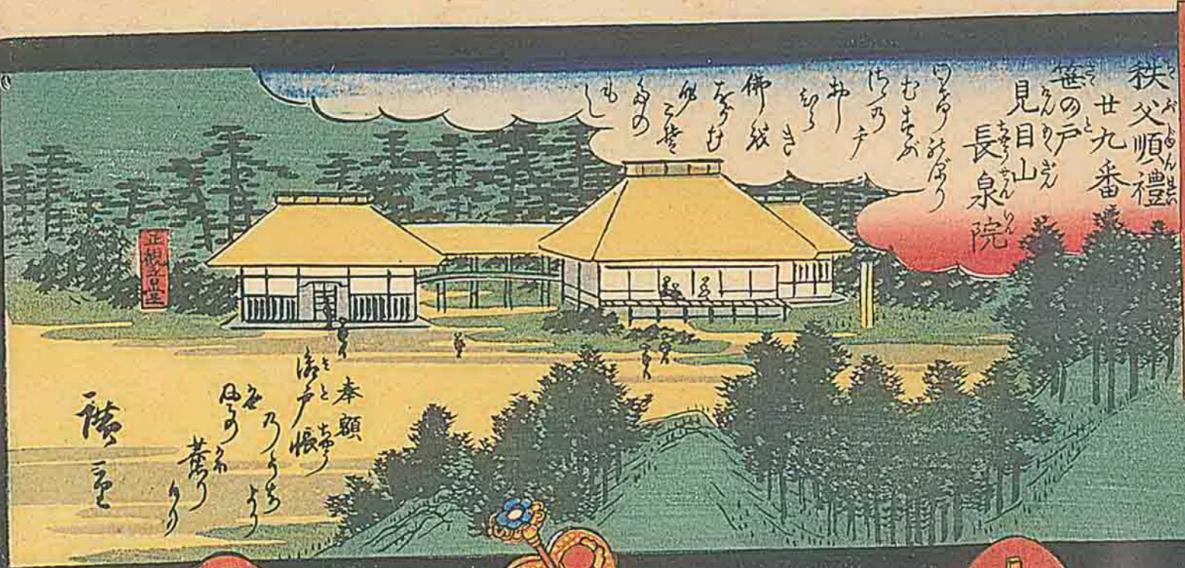


白山、越の、春、澄、眺、盧、遮、那、佛、の
初、め、の、如、智、の、白、山、を、此、所、に、勧、請、
す、本、尊、の、天、照、太、神、の
御、作、の、ひ
傳、を、誦、す
の、の、れ、も、も
毘、盧、遮、那、
是、日、輪、
す、め、の、説、き、た
の、の、れ、も、も、
恋、の、産、の、道、女、の、中、の
病、の、り、の、り、の、り、の、り、
用、ひ、た、ん、の、り、の、り、の、り、
秩、父、の、僧、を、日、々、修、行、し、未、り、し、ふ、く、是、ふ
千、の、内、を、施、し、た、れ、ば、一、本、の、楊、枝、を、用、ひ、ん、す
白、山、の、觀、音、を、信、じ、て、此、楊、枝、を、用、ひ、ん、す
口、中、の、煩、ひ、を、お、ち、し、愈、々、と、教、へ、
の、が、歡、び、の、容、入、の、送、り、む、の、い、ふ、も、志、す
と、な、り、信、心、に、ま、か、り、楊、枝、を、の、り、口、中、を
す、し、し、忽、ち、愈、々、と、あ、り、ま、り、今、も、當、寺、へ



萬亭應賀記

觀音靈驗記



龍女



觀音靈驗記



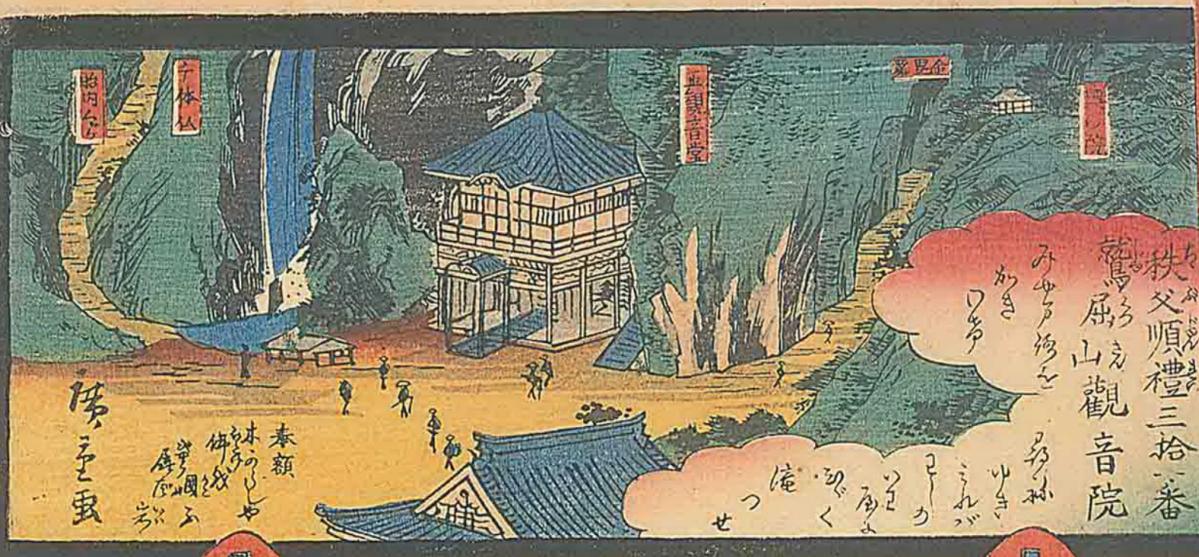
唐鏡



南専戴山左板

萬亭 應賀誌

観音靈驗記



秩父順禮三拾二番
 鷹野山観音院
 御願の御願
 御願の御願

奉願
 御願の御願
 御願の御願

観音靈驗記



秩父順禮
 三拾二番
 船若法性寺
 石船山

奉願
 御願の御願
 御願の御願

秩父重忠臣 本多次郎親常

秩父の重忠
 天夢の告よりの事
 當山小田鐵をせしめ
 道の指し給ひの葉小
 尊像を見給ふ事
 親常小命トテ
 射し給へし其
 矢一本とておとす
 當りて人のとらふ事
 思ひく其の葉を取らる事
 見給ふ葉のうちに聖観音の
 尊像ありとて在りて
 感得して郷民小田鐵を
 當山小田鐵をせしめ
 觀音の天像ありて兼平五年相馬の
 將門の兵亂小田鐵の神社佛閣
 廢壞不及ひて古老の
 物語に記さればある有
 かくりて是を其の
 尊像のみより所せりて重忠
 のりて信じて急ぎ御堂を建立してより重忠の
 一門残り給依りて其天像も鏡もつら
 如くありしとて當山の奥の院小重忠の
 馬繫親常の矢の跡みぞとて
 奮跡のけりかたなり



万亭
 應賀誌

豊嶋權守の娘

當國豊嶋郡の住人豊嶋權守一人の娘
 同郡某の嫁せしむ時彼娘が里の
 舟に乗りて船小舟をりて岸を離れ
 悪魚小見込込て終小水底小舟入りし
 一人の美女をりて其娘を助け舟を
 来せり送りて後者とも夢の如く
 今あひて何れの者と用られ
 昔石船山の者あり娘が父を
 主従り観音を信むるが父危難
 を助けりと言ひ失ぬるの事
 權守小告りて隨喜の涙を流して
 利益を尊び其恩謝して諸所を順禮して當
 山小田鐵の御帳を掛け拜されば其娘
 冠りたる笠を着あひて
 感涙を尽し七日三夜
 般若心經を書写
 無量に奉り
 誠み
 或漂流巨海
 龍魚諸鬼
 難念彼観音力波
 浪不能没の經文有かた
 今由本尊へ天冠のふを笠を
 着て舟小棹りて尊像あり



万亭應賀誌

観音靈驗記



楠正成
當守者も今迄御座り
己の方立たり隔ち
人峠との所千の
しつ頭の人う
住のゆ人各々
此盗人修
折基
信なるありも當守
水寺と号せ吾家の
後縁ありとを
所しを内を赤坂の城を
旅のきき竹策を城を
平小舟を落行と長
前を忍び通る敵
役野舟を案内
其大將の御内の者
行過れば中き者
此手のりの文ら
近く射つる矢



万亭應賀誌
天長元年東國大旱
五穀分論人番草木
脚るま法由手と盡
是より雨降志然
向て雨を祈る
其大余の法師
其大余の法師
里人ホ喜ひく是
巡り此地地
今茲西國
び之東方
百番
権現を
あま
失ふ
且ハ
萬亭應賀誌

正成の肩
痛み
其場を
免
後日
離れ
住
見
心
二
居
天

観音靈驗記



秩父順禮
三拾番
日澤
水澤
山
札立峠
天長元年東國大旱
五穀分論人番草木
脚るま法由手と盡
是より雨降志然
向て雨を祈る
其大余の法師
其大余の法師
里人ホ喜ひく是
巡り此地地
今茲西國
び之東方
百番
権現を
あま
失ふ
且ハ
萬亭應賀誌



萬亭應賀誌
天長元年東國大旱
五穀分論人番草木
脚るま法由手と盡
是より雨降志然
向て雨を祈る
其大余の法師
其大余の法師
里人ホ喜ひく是
巡り此地地
今茲西國
び之東方
百番
権現を
あま
失ふ
且ハ
萬亭應賀誌

360



佛海藏書

受入
41.1.12
東京大学図書

